



ハル・ハウスにおける特別なニーズのある子どもの 余暇・身体活動の展開（1890-1907）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 千賀, 愛 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00006909

ハル・ハウスにおける特別なニーズのある子どもの 余暇・身体活動の展開（1890-1907）

千賀 愛

北海道教育大学札幌校特別ニーズ教育学研究室

Development of Recreation and Physical Activity for Children with Special Needs at Hull-House (1890-1907)

SENGA Ai

Department of Special Needs Education, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education

概 要

本研究は1889年9月に米国シカゴの移民・貧困地区で開設されたセツルメント活動の拠点であるハル・ハウスを対象に、貧困問題や健康問題を抱えた特別なニーズのある子どもの余暇活動やスポーツを中心とする身体活動がどのように展開されていたのかを明らかにすることを目的とした。分析対象とした期間は1890年から1907年であり、ハル・ハウスの会報や会計資料などを検討した。初期には身体訓練を中心とする体操が行われていたが、徐々にバスケットボールやスケート、室内野球や陸上競技へと身体活動の幅が広がり、ダンスや演劇の活動も展開されていた。また体操やスポーツ活動が当初は男性に限定されていたが、女性や学齡児の女子を対象とするクラスも開設され、幅広い年齢・性別から参加できるようになっていた。またバスケットボールの試合では地域のチームと試合を行うなど、スポーツを通じた同世代の交流の機会を生み出していた。

I. 問題の所在

2006年に国連で障害者権利条約が採択され、障害者の社会参加に向けて合理的配慮と差別撤廃の国際的議論が展開された。日本は2014年に条約を批准したが、国内法制との整備として「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」を2013年6月に制定、2016年4月に施行されることとなった。障害者の社会への参加は、労働や教育のみならず、余暇・スポーツ・文化活動も含まれる。10年ぶりに改訂された日本の学習指導要領では、障害等のある児童生徒に対して「生涯を通して主体的に学んだり、スポーツ文化に親しんだりして、自らの人生をよりよくしていく態度を育成することを規定した」（文部科学省：2018, p.10）。澤江・齊藤（2014）によれば、現代の子どもたちのスポーツ・運動習慣は体力・運動能力ともに二極化の傾向にあ

り、障害による特性や制限だけでなく自閉症児の不器用さなど、障害のある子どもの身体は運動や体育の側面で様々な困難を抱えている。2020年には新型コロナウイルスの影響で学校の臨時休校が長期化し、子どもの学習はもとより余暇活動も大きな制限を受け、経済的に困難な家庭や障害のある子どもの余暇支援の在り方が改めて問われることになった。

さて本稿でとりあげるアrika合衆国（以下、米国）では、19世紀後半から急激に産業化・都市化が進行し、貧困を背景に子どもの過酷な児童労働や生活の問題が顕在化したことから、19世紀末から遊びの環境づくりを含む多様な児童保護運動が始まった（Frost, 2010）。米国東部ボストンでは南北戦争後の1867年から1873年のわずか6年間に市の区域が441%も拡大した後に人口も増加し、1880年の時点でボストンの住民の64%は外国出身や外国で生まれた親を持ち、1910年にはその割合が74%に達した（Hardy, 2003, p.31）。ボストン市内では分断された階層や民族間が対立する状況に対して、人々の参加によって「組織化されたレクリエーションとスポーツは、市と内部の生活を監督しコントロールするための手段」となっていた（Hardy, p.40）。ボストンを含むニューイングランド地方ではピューリタンがスポーツを身体訓練と気晴らしとしてとらえ、労働の合間に生じる自由な時間に心身を鍛えたとされた（ibid., p.41）。当時の学校には校庭の設置義務もなく、貸しビルの一室を教室にすることも都市部では珍しくなかった。19世紀後半における学校体育は、健康の増進や姿勢等の矯正を目的にドイツやスウェーデンから体操が導入され、これに対して20世紀初頭に教育学者らが遊びの重要性を提唱していたが¹⁾、「体育の近代的哲学者」として知られるウッド（T. D. Wood）が遊び理論を発展させて実践の理論的基盤を築いたのは1910年代であったとされる（Welch, 2004, p.110 & 117）。したがって19世紀末から20世紀初頭の都市部の子どもの遊び場は現代のように学校の校庭や公園ではなく、近所の路地裏や空き地等に限られていた。

アメリカの都市部に公園が開設された背景として、19世紀末にかけて都市部への人口流入が急速に進行した一方で、労働時間が短縮されたことで余暇の時間が生じ、また移動手段の発展によって人々の移動が容易になったことが指摘されている（Welch, p.70）。1880年には米国の総人口約5千万人のうち、最も人口が多い5つの都市はニューヨーク（120万人）、フィラデルフィア（84万人）、ブルックリン（56万人）、シカゴ（50万人）、ボストン（36万人）の順であったが、10年後の1890年には総人口が25.5%増加して6297万人に達し、ニューヨーク（151万人）、シカゴ（109万人）、フィラデルフィア（104万人）、ブルックリン（80万人）、セントルイス（45万人）と上位5つの都市も大きく変動し、とりわけシカゴは10年間に人口が二倍以上に拡大した（U.S. Census Bureau）。子どもの遊び場がなかった都市部では、ニューヨークやシカゴにおけるセツルメント活動の担い手が、自身の子ども時代に森や野原、家畜がいるなかで最も創造的な遊びが田舎で行われたことを想起していた（Frost, 2010, p.69）。

シカゴでは大工場の裏や下水・生ゴミ・動物の死骸が放置された不衛生な環境下で子どもが遊んでいたが、社会改良活動に取り組むJ. アダムズらによる活動によって1892年に児童公園が設置された（木原, p.119）。1889年にアダムズはシカゴの貧困地区にハル・ハウスを開設し、自らも支援者とともに住み込み、英語を母国語としない移民や児童労働、居住を持たない工場労働者、不就学児や病弱児など、様々な困難・ニーズを抱える人々を対象にセツルメント活動を展開したことが知られている（千賀・高橋, 2003他）。ハル・ハウスの活動は児童福祉や社会学の先進的側面が注目される一方、先行研究では芸術や余暇の活動は十分に検討されてこなかった。杉山（2014）によれば、ハル・ハウスで「芸術教育を通して都市シカゴにおける市民教育の基礎を築こうとした」エレン・ゲイツ・スターと、「労働・福祉立法化という形で現実に立ち向かう」ハル・ハウス全体の方針とは相違点が生じていたという。移民や貧困地区の様々な課題を抱えた地域の支援活動では、芸術活動としての余暇の位置づけは優先事項とはならなかった側面は否めない。しかし、ハル・ハウスでは開設当初から教育や娯楽の一環として、クラブ活動や学習会・読書会、コンサートや運動

の機会を通じて多様な住民が交流してきた (Addams, 1896)。その様子は当時の報告書や関連資料にも多く確認できる。

そこで筆者は貧困地区で生活や健康面で様々な困難を抱える子どもを対象にした余暇活動がどのように展開されたのか、英語を母国語としない移民も参加しやすい身体活動やスポーツ活動に注目することとした。

II. 研究の目的と方法

本稿では、シカゴの貧困地区に開設されたハル・ハウスにおいて、スポーツや身体活動を中心に特別なニーズのある子どもを対象とする余暇活動がどのように展開されたのか、とりわけ健康増進や矯正のための体操などの身体訓練、遊びやスポーツ活動、ダンス・演劇などの身体活動の視点から明らかにすることを目的とする。ハル・ハウスに集まっていた子どもたちには、英語を母国語としない移民や貧困児童、病弱児、児童労働は生活環境の厳しさから障害を負っている場合もあり、様々な事情で公立学校に通っていない特別なニーズのある子どもが多く含まれる。本研究で分析する時期については、ハル・ハウスが設立された1889年は開設初年度であるため余暇活動や身体活動を記述する資料の入手が難しいことから翌年の年にあたる1890年から1907年とした。当時のハル・ハウスが発行していた会報、設立者のジェーン・アダムズや支援者らによる報告や論考などを検討する。主な資料は、ハル・ハウスの運営やセツルメント活動に関する史資料集 *The Jane Addams Papers* (マイクロフィルム)、シカゴ市教育委員会年報等である。個人名なども含まれるが資料集としてすでに公開されているため、個人情報等の問題はない。本発表では同志社大学アメリカ研究所および北星学園大学図書館に所蔵される史資料集 *The Jane Addams Papers* の *Administration of Hull-House* (運営資料)、*Hull-House Bulletin* (会報) および *Hull-House Year Book* (年報)、*Investigation and Research* (調査研究) の内容を中心に分析を行った。

III. 結果と考察

1. ハル・ハウスにおける労働時間規制 (1893) 前の余暇活動

アダムズによればハル・ハウスの目的は、「より高い市民的・社会的生活のためのセンターを提供することであり、教育的・博愛主義的事業の着手と維持、そしてシカゴの産業地区における諸状況の調査と改善を行うこと」であった (Addams, 1896)。社会調査として有名なハル・ハウスによる調査 “*Maps and Papers*” において、全米で行われた1880年と1890年の労働調査の結果が検討され、16歳未満の男子と15歳未満の女子に関する児童労働の人数は、親や雇用主が調査用紙に働く子どもの年齢を実際より高く報告するため、実態とはかけ離れて非常に低くなっていると指摘している (Hull-House, 1895b, pp.49-50)。イリノイ州では1893年の州法により14歳未満の雇用は禁止されて以降、シカゴ市教育委員会の義務教育課が名前・年齢・居住地を把握するようになり、欠席調査官が貧困を理由とする14歳未満の就業を許可していたが、子どもや保護者が窮状を申し出れば認められたため、多くの子どもが工場で働くことができた (Hull-House, 1895b, p.51)。また1893年の工場法 (factory law) が成立する以前には、例えば繁忙期のクリスマス前には朝7時から9時までの就業時間のうち20分間の昼食の時間があつたが夕食はなく、週に82時間も働いていたが、同法が施行されて以降は週6日34時間、1日8時間の労働時間にまで制限されることになった (ibid., pp.57-58)。1892年のイリノイ州による労働調査によれば、1日あたり10時間で週に6日の工場であっても、繁忙期になると1日あたり12時間や16時間の就業時間が週に7日も求められ、低賃金の女児の場合には日給50セントで12-14時間働いても超過の時給は5セントしか支払われていなかった (Bureau of Labor

Statistics, 1893, p.393)。児童労働や工場労働の賃金格差は常態化していたのであった²⁾。

雇用の際には健康検査に合格した者しか働けないにもかかわらず、過酷な長時間労働が発達期の子どもに及ぼした健康への悪影響は深刻であり、タバコ工場のニコチン中毒、縫製工場や器械仕事における脊椎湾曲や骨盤障害、指の変形、金属加工所や塗装工場における呼吸器疾患が報告された (Hull-House, 1895b, p.58)。例えばベーキングパウダーの工場では8名の女兒が医師の検査を受けたが、1人が脊椎湾曲、1人が甲状腺肥大、2人が弱視 (defective sight) と難聴 (slight deafness)、1人が圧着機で手を痛め、1人はミシンで人差し指が切断されていた (ibid. p.60)。14歳以下を含む女性の工場労働の健康調査を行ったイリノイ州の労働調査においても、疾患や健康問題の多い職場として靴工場・ネクタイ工場 (15%)、食肉加工 (14%)、パン屋 (12%) が指摘されている (Bureau of Labor Statistics, 1893, p.L)。ハル・ハウスによれば、当時の工場で使われる器械の安全基準がなく、安全な使用に関する英語の注意書きと事故の際の自己責任の旨が掲示されていたが、英語が読めない労働者は年齢にかかわらず身体の切断や死という危険と隣り合わせの労働環境に置かれていたのであった (Hull-House, 1895b, pp.67-68)。1893年に州法で労働時間の規制が行われる直前に行われたイリノイ州の労働調査によれば、1892年にシカゴで働く就業女性が働き始めた年齢の平均は15歳であり、14.6%が14歳になる前から就業を開始していた (Bureau of Labor Statistics, 1893, p.XL)。

ハル・ハウスが位置する第19地区では、4つの公立学校に確保された3434人分の座席数に対して、3000人が学校の定員超過のために未就学となっている実態が報告された (Hull-House Bulletin, 1896, 1(1))。ハル・ハウスでは乳幼児の保育園・幼稚園から学齡児の余暇、青年や成人を対象とする学習クラブや余暇活動、スポーツの機会を提供していたが、とりわけ学齡児に対しては放課後や休日を中心に余暇活動が行われており、児童労働に従事する子どもにとっては遊びと生活、同年代の子どもと交流する機会を提供した。

表1はハル・ハウスが開館した1889年の2年目にあたる1890年から4年目までのクラブ・クラス活動のプログラム案内のうち、子どもや十代の青少年を対象にした余暇活動を示している。1890年のプログラムは手書きで残されており、1891年から活字で印刷されたプログラムの一部がJane Addams Papers資料集に残されている。1890年11月には、午後2時からの時間帯に「子どもの英語と遊びのクラス (English class, play class for children)」が週の前半に3回、火曜には「男の子の体操クラス (Boys gym class)」, 子どもの遊びが中心の活動が木曜に3つ開かれていた。ハル・ハウスの近隣には英語を母国語としない移民が多かったことから、遊びと組み合わせる子どもの学習と余暇を提供したことがわかる。1891年1月の活動プログラムの記録によると、ピアノレッスンや童話のクラブ活動も展開されているが、体操クラブの名称ではなくなっている。月曜夜の「女の子のクラブ (Girls' Club)」や火曜の放課後の「学校の男の子のクラブ (Schoolboy's Club)」や「愉快的男の子のクラブ (Jolly Boys' Club) 活動の内容が示されていないため、詳細を知ることができないが、前年 (1890) と後年 (1892) の内容から、遊びや音楽、ゲームなどが行われていた可能性がある。1891年7月は夏季学校 (Summer School) が同じイリノイ州のRockfordで開かれ、表1に示す通常の各種クラスに加えて、大学拡張クラス (College Extension Course) が開設され、毎週2ドルの参加費であったが75人が参加し、施設はロックフォードのセミナーハウスが提供された (Hull-House, 1892, p.14)。夏季学校では、朝8-9時の時間帯に体操 (月・水・金曜) とテニス (火・木・土) を行った後、野外学習 (Outdoor Study) として鳥をテーマに月・水・金曜の朝9-11時、植物をテーマに火・木・土の朝9-11時、長い休憩後の午後4-5時半に英語や読書会・歌唱・スケッチ (絵画) の活動が行われた (Hull-House, 1891)。

1892年3月のプログラムでは、子どもの活動は裁縫・絵画・童話・読み聞かせの活動へと分かれたが、体操クラスや十代の青少年が交流する場も設けられた。水曜夜の「若い市民クラブ (Young Citizens' Club)」は体育館で14-18歳の男子 (boys) 30人を定員として行われ、「会員の大部分は2年間に在籍」して

表1 ハル・ハウスの子どもや青少年を対象としたクラブ活動のプログラム（1890-1892年）

年 月	クラブ活動・余暇活動の対象と内容
1890年 1月	月曜：午後2時 子どものための英語と遊びのクラス 夕方 働く女子のためのクラス（音楽、ゲーム、調理など） 火曜：午後2時 子どものための英語と遊びのクラス 午後4時 男子の体操クラス 午後6時 男子のクラブ 水曜：午後2時 子どものための英語と遊びのクラス 午後4時 子どものための粘土遊び 木曜：午後3時 子どもと遊ぶクラス 午後4時 ストリートでゲーム 午後4時 ポルク通りの女の子の遊びのクラス
1891年 3月	月曜：午後7時半—9時半 女子のクラブ（働く女子のための図書館の時間帯） 火曜：午後3時半—5時 学校に通う男子のための図書館の時間帯 学校に通う男子のクラブ、愉快的な男の子のクラブ、童話クラブ 午後7時半—9時半 若き市民のクラブ（働く男の子のための図書館の時間帯） 木曜：午後3時—5時 家計と子どもの世話について語るお茶会（その後の6週間は調理） 金曜：午後3時半—5時 学校に通う女子のための図書館の時間帯 家事と家庭菜園クラス（裁縫、繻い物、居間、調理、家庭菜園、家庭菜園の歌）
7月	夏季学校（Summer School）がRockfordにて開催、通常のクラスと大学拡張クラス、テニス、体操
1892年 3月	月曜：午後3時半—5時 イタリア人の女子の裁縫クラス 午後（放課後） 絵画クラブ 午後4時半—5時半 男子の体操クラス（体育館） 午後8—10時 ハル・ハウス交流クラブ（16—20歳の女性30人が対象、第4月曜はダンス） 午後8—10時 ハル・ハウス ディベートクラブ（男性対象、後半から交流クラブと合流） 午後8—10時 男性の競技（Athletic）クラス（体育館） 火曜：午後3時半—5時 学校に通う男の子のクラブ 午後（放課後） 童話クラブ、楽しい男の子クラブ、幼稚園クラブ、絵画クラブ 午後7時半—9時半 若い市民クラブ（14—18歳の男子30人） 水曜：午後8時—9時 女性体操（Gymnastic）クラス（体育館） 木曜：午後7時半—9時半 ハル・ハウス競技（Athletic）クラス（14—16歳の女子30人） 金曜：午後3時半—5時 学校に通う女子のクラブ、読み聞かせクラブ

出典：Hull-House Association Records, Schedules, Announcements, and Invitations, 1890-1923, Weekly Programs, The Jane Addams Papers, Reel 50, 1890 Nov.3, 1891 Jan., Mar. and 1892 Mar., Summer School, 1891, The Jane Addams Papers, Reel 53より筆者作成。

おり、「最初の1時間は体操、次に若い市民が関心を持っている話題を議論」していた(Hull-House, 1892, p.5)。また1892年3月のプログラムでは、火曜日夜7時半から9時半には「ハル・ハウス競技クラブ（Hull-House Athletic Club）」が体育館において14—16歳の女子30人を定員として活動し、「最初の1時間の体操の後、クラブで関心のあるものを読んだり議論したりしている」(ibid., p.8)。いずれもクラブ活動の半分は体操、半分をクラブのメンバー間で関心のある題材について議論する時間に充てており、体操という運動と同等に同世代の交流や議論が重視されていることがわかる。また水曜日と木曜日の女性の競技クラスには、指導者だけでなくピアニスト1名が付いており、音楽に合わせた身体活動だったことが分かる。表1に示すように、1890—1891年は子どもの遊びのクラスと体操のクラスは別々に設けられていたが、1892年から体育館における身体活動や運動の後の意見交流などの機会が設けられるようになった。夏季学校については、毎年継続して行われていると推測されるが、今回の資料には記載されていなかった。

2. ハル・ハウスにおける身体活動とスポーツ活動の展開（1894－1903）

次に、1894－1896年のハル・ハウスの体育館や公園で行われた身体活動・スポーツ活動を検討する。表2に示すように、1894年になると体育館の体操クラスは女性・男性・女子・男子の4つのクラスに分けて毎週行われるようになり、木曜の夜には体育館で娯楽の企画、土曜の夜にはダンスが行われ、体育館の活用が拡大した。1895年1月にはダンスのクラスが大人と子どもに分かれて設定され、秋にはバスケットボールの練習が土曜の夜に行われるようになったことが分かる。そして1896年1月にはバスケットボールと室内野球（indoor baseball）の試合の日程が示され、男性を中心に余暇スポーツが地域のチームとの交流の機会になっていったことが予想される。

表2の1896年の体操クラスの内容には、ダンベルや行進とステップといった伝統的な体操とともに、バスケットボールの練習が男女ともに大人のクラスで行われるようになったことが示されている。またダンスと冬季のスケートは、余暇活動の意味合いがある。学齡児コーラスのクラブが1894年の冬から活動を開始し、指導者3人のもとで1896年1月の時点で定員500人が埋まり（Hull-House Bulletin, 1896, 1）子どもに人気があったことが分かる。他にも、児童演劇を行うグループがあり、1月3日にはハル・ハウスの体育館で「リズムランド」という演目が10セントで上演された（ibid.）。

1895年の体育館の体操クラスやダンスクラスを示す資料には、クラスの会費が示されており、大人の体操クラスとダンスは3か月75セント、子どものクラスは3か月45セント、子どものダンスは3か月25セントであり、これにシャワーとロッカーの利用料金が含まれている（1895a, Hull House）。1896年の体操クラスでは会費が記載され、月に15セントで体操クラブとその後のシャワーの利用が可能であった。シカゴの児童労働者6567人を対象とした調査によれば週当たり40セントから4ドルの賃金を得ていた（Hull-House, 1895b, p.74）。このことから、体操クラスの利用料金は安い賃金労働者であっても支払える額だったことが窺える。

表2には1893年の記載がないが、資料が限られているため割愛した。1890－1892年と1894－1896年の各3年間を比較すると、前者の期間には運動の機会は体操（gymnastic）に限定されていたが、1892年にはダンスが加わり、1894年から子どものダンスが追加され、1895年からバスケットボールの練習が定期的に行われるようになった。1896年からバスケットボールや室内野球の試合が企画されており、単なる身体訓練ではなくチーム・スポーツや余暇スポーツとして展開されていたことが推測できる。

3. 余暇活動における身体活動とスポーツ活動の展開（1898－1903）

1898年から1903年におけるハル・ハウスの余暇活動における身体活動とスポーツ活動の内容を表3に示す。

ハル・ハウス（1898）によれば1897年10月の最終週から体育館の活動としてバスケットボールの練習を開始し、参加者が皆で「試合に興味を示し（担当の）Miss Gylesにプレーを申し込んできた。チームのメンバーが競争的になってしまうため、真面目に練習をしている者を選ぶことになるだろう」としている（Hull-House, 1898, pp.3-4）。1898年には女性のクラスでもバスケットボールの練習が行われるようになり、スポーツ活動の拡大がみられる。また1898年はハル・ハウス演劇協会（Hull-House Dramatic Association）ハル・ハウス内の各クラブからメンバーを募集して結成され、1月の会報には16人が会員になったがまだ余裕があると記載されている（ibid., p.8）。1898年10月には、新しい体操クラスのメンバーには、3か月以内に身体検査を受けることになった（Hull-House, 1898, p.3）。

ハル・ハウスではバスケットボールの練習が熱心に行われていたが、1899年1－2月のハル・ハウス会報（Bulletin）には、市の7チームがバスケットボールのリーグを結成して4年が経ち、2月には6試合がハル・ハウス、3試合が相手チームの体育館で行われ、試合結果が点数とともに報告された（Hull-House, 1899, p.3）。ハル・ハウスの女子チームはEnglewood高校と2月25日に試合を行い、13対1で勝利し、これが年間で唯一

<p>1900年 冬</p>	<p>体育館の体操クラス (Gymnastic Classes) ※身体検査が新しいメンバーに行われる 女性クラス：木曜と金曜の夕方7時半—9時半。行進とステップ、軽めの体操、スウェーデン式体操、試合、重い用具の活動。 女性の特別クラス：月曜と木曜の夕方4時45分—6時、木曜夜はインドアボールのリーグシーズン中に対抗試合、土曜夜は試合の練習や用具を使った特別な練習を行う。 女子クラス：火曜と木曜の夕方4時 男性クラス：月曜と水曜の夜8—10時、軍隊用訓練 (military drills), 軽い用具・重い用具の活動、室内の試合 男子クラス：月曜と水曜の夜7—8時 スポーツ・身体活動 フェンシング・クラブ：金曜夜7時半 (Domestic Science Room) ダンスクラス：初級クラスは土曜夜8時、上級クラスは水曜夜 (50人まで)、児童ダンスクラスは土曜午後2時半 (講堂) その他の子どもの身体・スポーツ活動 スケート場 (Polk通り, Halsted通り西側) を公園内に開設：学校の放課後と毎晩、休日</p>
<p>1903年 夏 10月～ 1904年 1月 夏 11月末</p>	<p>体育館の体操クラス (Gymnastic Classes) 女性クラス (上級)：月曜と金曜の夜8時15分—9時30分 女性クラス (中級)：月曜の夜7時—8時、水曜の夜8時15分—9時30分 女性クラス (午後)：月曜と木曜の4時—5時 14—17歳のジュニア少女クラス：水曜と金曜の夜7—8時 14—18歳のジュニア少年クラス：木曜・火曜・土曜の夜7—8時 男性：木曜・火曜・土曜の夜8時15分—9時30分 学齢男子：水曜と土曜の4時—5時 学齢女子：火曜と金曜の4時—5時 スポーツ・身体活動 ハル・ハウス陸上競技リーグ結成：火曜・木曜・土曜の午後と夜、13—16歳の少年。高飛び、棒高跳び、砲丸投げ、幅跳び、ランニング、短距離走 (sprinting), 室内ボール (indoor ball) の指導と練習、記録会、身体検査。 体育館の大人のクラス：陸上競技 (棒高跳び・幅跳び等), バスケットボール, インドアボール ダンス：成人向け。初心者は木曜8時, 上級者は火曜8時。 ダンス・クラブ (Fleur De Lis Club)：若い男性・女性によるダンス, 月曜夜 (講堂ホール) 社交クラブ (Gernon Club)：レセプションとダンス, 火曜夜 (講堂ホール) フェンシング・クラブ：毎月第2・4月曜日 (幼稚園の教室) その他の子どもの身体・スポーツ活動 ハル・ハウスの公園：学校休業中は朝8時から夜9時半に開園, 学校がある時は午後1時から2時半は閉園 スケート場：氷が張られてオープンした。学校がある時間帯は縮めるが、放課後は無料。冬季には延べ2700人が入場料を支払って入場した。</p>
<p>1905-06年</p>	<p>体育館の体操クラス (Gymnastic Classes) 男性シニア：火曜・木曜・土曜の夜8時15分—10時 (土曜は試合) 男性中間：火曜, 木曜, 土曜の夜7時—8時15分 ジュニア少年：水曜の午後4時, 土曜の午前11時—午後2時 ジュニア少女：水曜と水曜の夜7時—8時15分 女性シニア：月曜と金曜の夜8時15分—10時 女性中間：水曜の夜8時15分—10時, 金曜の夜7時—8時15分 女性 (午後)：月曜と木曜の2時—3時30分 学齢女子：月曜と金曜の4時—5時 スポーツ・身体活動 ダンス・クラス：成人向け。初心者は木曜夜8時, 中級者は水曜夜8時, 上級者は月曜夜8時 バスケットボールのチーム：First, Second, Intermediate, Comets, Midgets, Juniors, Girlsの7チームが対抗試合を実施。10月にリーグ戦を実施。 陸上競技大会 (5月), 野球 (夏季) ダンス・クラブ (Fleur De Lis Club)：若い男性・女性によるダンス, 月曜夜 (講堂ホール)</p>

出典：Hull-House Bllletin, 1(1), Jan.1896, pp.4-5, Hull-House Bllletin, 3(1-2), Jan.1898, pp.3-4 & 8 and Hull-House Bulletin, 6(1), pp.4-6 & p.10より筆者作成。

の公式戦だったという (ibid.)。またバスケットボールの参加者は体操のクラスにも興味を持って参加していた (ibid.)。

1900年になると従来の体操とバスケットボールに加えて、フェンシングの活動が毎週行われるようになった。また1900年の男子クラブ (Boy's Club) では、夕方から夜間に電気クラス、タイプ筆記・クラス、手工訓練、缶工房、プラスバンド・クラス、カメラ・クラス、ステンシル・クラス、バスケットボールの試合やボーリングなどの活動が行われ、クリスマス前の12月23日夜には、ダンスや歌の催し物が行われた (Hull-House Boys' Record, 1(2), 1900)。この年末の会場から帰る際には参加した男の子達にキャンディの箱が渡され、その数はおよそ650に上ったという (ibid.)。地域の多くの子どもが参加していたことが分かる。

ハル・ハウスの男子クラブには、バスケットチームが複数編成され、ファースト (First)、ミジェット (Midgets)、カーディナルス (Cardinals)、プレップス (Preps)、の各チームがイリノイ州のチームと試合を行っており、1900年には新たにジュニア (Juniors) チームを立ち上げた (Hull-House Boys' Record, 1900)。これらのチームの多くは1905年の報告にも残っており、女子のバスケットボールのチームが加わっている。男子クラブには、ボーリング・チームがあり、1900年1月の会報では6回戦のうち5回の勝ちと1回の負けが報告されている (ibid.)。

1903年には、13-16歳の少年を対象に野外で陸上競技が行われ、短距離走、高跳び、幅跳びなどの練習や記録会に75人が参加した。1903年秋冬は全ての体育館のクラスでバスケットボールが行われるようになった。このように初期の体操からバスケットボール、フェンシング、ダンスや演劇、陸上競技などに活動の幅を順調に広げていったように見えるが、ハル・ハウスの報告書 (Hull-House Year Book, 1907) によれば、「開

館当初から体育館の用具の支援を受けていたが、コービーハウス館が完成した1893年までは十分とは言えなかった」。コービーハウスでは、朝から夜7時まで安価で栄養のある食事を提供しており、夜の身体活動の前にはこうした食堂が利用されていた。

1906年の会報 (Hull-House Bulletin) によれば、体操の男性・男児クラスには「矯正的な活動の概念が導入され」、身体発達を促すことになったという。また学齢女子のクラスは参加者が60人を超え、通常の体操に加えてバスケットボールの練習も行われ、スミスカレッジのコーチがボランティアで指導していた。年度末にあたる5月には女性の体操クラスで2回に分けて発表会が開かれ、1回目はメンバーの子どもや友人、2回目は大人のメンバーの友人が招かれ、体操を披露した (Hull-House, 1906, pp.6-7)。

陸上競技には様々な用具も必要になる。表4は1903年に報告されたハル・ハウス体育館の物品一覧である。野球の用具 (グローブ・バット)、バスケットボールのゴール、陸上競技の用具、体操 (ダンベル、あん馬台など) に加えて肺活量計もあり、身体測定などに活用されていたことが示唆される。

表5は、1905年5月のハル・ハウス体育館の一般

表4 体育館の物品一覧 (1903)

物品名 (数)	評価額 (ドル)
グローブ (1セット) -----	\$ 4.0
バット (1) -----	0.4
ロッカー (200) -----	350.0
肺活量計 (1) -----	12.0
シーソー梯子 (1セット) -----	10.0
じゃが芋の箱 (1セット) -----	3.0
空中ブランコ (1) -----	6.5
棒高跳びのポール (1) -----	1.5
こん棒 (4ダース) -----	5.0
ダンベル (56) -----	8.0
クラブ棒 (77) -----	11.5
バスケットボール用ゴール (2) -----	3.0
バスケットボール用ボール (2) -----	6.0
平行棒 (大中小各1) -----	62.0
あん馬台 (1) -----	100.0
跳馬台 (1) -----	30.0
吊り輪 (3セット) -----	40.0
うんてい (1) -----	25.0
調整梯子 (1) -----	30.0
調整平行梯子 (1) -----	25.0
登り棒 (2) -----	9.0
マット (大2, 小5) -----	85.0

出典: The Jane Addams Papers, Reel 50, Administration of Hull-House, Building & Physical Plantより一部抜粋して発表者作成。

表5 体育館の一般開放の活動例 (1905年5月)

内容	リーダー名	対象クラス
1. 行進	Frances Shea	全クラス
2. ダンベル	Houslby講師	学齡女児
3. マット活動	——	学齡女児
4. 行進とボルカステップ		学齡女児
5. 子供用バーベル訓練		ジュニア
6. 器械運動 (Apparatus Work)		ジュニア
跳馬台	Mollie Wollert	
ポール	Rose Schur	
うんてい	Sylvia Rivkin	
7. ダンベル訓練		中間・午後
8. マーチングとファンシーステップ ^{※1}		中間・午後とジュニア
9. 2本のこん棒		シニア
10. 気まぐれ (Caprice)		中間・午後
11. 器械		シニア・中間・午後
あん馬	Kartens	
吊り輪	Hajek & Clifford	
斜め梯子	Moor	
12. ボルカ	体操ダンス	シニア
13. ジャンプと大きな歩幅 ^{※1}		
14. バスケットボール ^{※2}		

※1 ファンシーステップ (Fancy Steps) は当時のダンスに取り入れられた基本ステップの一つである。

※2 資料にクラスの記載はない。

出典: Visitors' Evenings, Hull-House Gymnasium, May 29th and List, 1905, The Jane Addams Papers, Reel 50より筆者作成。

表6 1896年1月の催し物 (Entertainments)

1896年 日付	内容	会費
1月1日(水)	ハル・ハウスのクラブ 全メンバー対象の集会	招待
1月2日(木)	上演「眠る車」	15セント
1月3日(金)	児童劇「リズムランド」	10セント
1月4日(土)	劇の出し物「星の娘」	招待
1月9日(木)	出し物, 音楽, ダンス	25セント
1月16日(木)	就業女性協議会の月例集会	
1月23日(木)	ハル・ハウス男性クラブ の月例レセプション	招待
1月30日(木)	劇の出し物, Arlingtonクラブ	

出典: Hull-House Bulletin, 1(1), Jan.1896より筆者作成。

開放の活動例を示した。毎週のクラスに入らなくても、一般開放で体験できるように行進やステップ, マット運動, 器械体操やバスケットボールなど様々な運動に子どもが参加できるように設定されている。

4. 子どもの余暇活動における演劇・表現活動の取り組み

ハル・ハウスでは、演劇や音楽, ダンスなどの表現活動が積極的に行われていた。貧困地区のセツルメント活動は、衣食住といった支援を受けることが目的ではなく、文化や芸術を楽しむこと、近隣の住民が集まって交流するために催し物 (Entertainments) が定期的に行われた。表6は1896年1月にハル・ハウス体育館で行われた催し物の一覧である。マイナス20度も珍しくないシカゴの厳冬期に、体育館を活用してハル・ハウスの構成員による集会だけでなく、児童劇や現劇, 音楽, ダンスなどの催し物が多く行われていたことが分かる。表6の招待とは、招待状により無料を意味し、その他は児童劇や劇などは入場料を徴収して行われた。

ハル・ハウスの演劇活動は、教育方法の一つとして始まった活動であり、劇場が整うまでは体育館で行われ、演劇協会内のクラブはシカゴの厳冬期に室内で練習を重ねて上演までの準備を進めた (Hull-House Yearbook 1907, pp.35-36)。ハル・ハウスの劇場は、近隣の学校や施設などにも利用されていた。1907年2月16日にはイリノイ州の高齢・虚弱ろう者ホーム (Illinois Home for the Aged and Infirm Deaf) を招いて「ある夏の日のすべて (All on a Summer's Day)」が上演され、内容を「挿絵と5人の役者によるパントマイム」によって表現し、「歌唱は手話によって行われた」(ibid., p.38)。この上演の「観客の大部分はろう者であったが、多くはクラブの会員としてハル・ハウスの交流会にも頻繁に参加していた (p.38)。演劇をパントマイムで演じ、手話によって歌を表現するために、多くの練習時間が費やされたと推測できる。ろう者との交流はその後も続いた。1907年4月20日には「ろう児 (Deaf Children)」, さらに年度内に盲者 (Blind), ユダヤ系孤児院を招いた上演も演劇クラブによって行われていた (p.38)。

1907年6月1日には「5セント劇場」が完成し、最初の2週間は毎日午後3時から10時までアニメ (moving picture) の上映会が行われ、ハル・ハウスのクラブ会員や地域の住民向けに約3千枚の招待状が配られた。

その際、アニメや映画のフィルムはハル・ハウス篤志家から寄贈された。アニメの選定には、ハル・ハウスの子ども達が選定を手伝った (Hull-House Year Book, 1907, p.39)。ハル・ハウス内の児童演劇協会 (Children's Dramatic Association) が主体となり、1907年4月には「アリスの不思議な世界」の演目が子ども達によって3回上演され、同年5月にも2回の公演が行われ、街の全区から子ども達が観客として多く訪れた (Hull-House Year Book, 1907, p.37)。このようにハル・ハウスの演劇活動は、演劇を通して表現活動を広げ、障害者を含む地域住民や近隣の子どもたちと交流する機会を生み出し、貧困地区で支援を受けるだけでなく、他者と協力して公演を成功させる過程で文化的な体験をするという主体的な活動としての側面があったと考えられる。

IV. まとめと今後の課題

本稿では、米国シカゴの貧困地区に1889年に設立されたハル・ハウスを対象として、1890-1907年の余暇活動における身体活動やスポーツ活動の展開を検討した。開設当初の1890-1891年は子どもの遊びが余暇活動の中心であり、体操は男性・男子のみに限られたが、1892年から女性や14-16歳の少女にも体操や競技のクラスが設けられた(表1)。1894年にはダンスクラス、1895年には学齢の女子にも体操クラスが開設され、年齢や性別に応じたクラスが設置された。バスケットボールは体育館内の練習から、徐々にハル・ハウス以外のチームとの試合が行われるようになり、スポーツを通して地域の同世代の人々との交流の機会を生み出すことになった。ハル・ハウスの体操はスウェーデン式という記載が多かったが、初期の身体的な訓練から徐々にダンス、バスケットボール、フェンシング、野球、スケートなど、多様な身体活動・スポーツへと展開していった。初等教育で体育が必修化されていなかった時期に、ハル・ハウスでスポーツや身体活動の機会を提供していた意義は大きいといえるだろう。また演劇の活動では、ろう者を招いた公演で手話を取り入れたり、子どもの演劇活動も有料で上演して地域の子どものを集めるなど、単に英語の訓練という範疇を超えて展開されていた。

このようにハル・ハウスの余暇活動では、利用者が常に支援を受ける受動的な存在ではなく、自らクラブ運営やスポーツ大会の試合に出場し、演劇では有料の上演をするなど、主体的に活動する機会につながっていたことが明らかになった。

今後の課題として、ジェーン・アダムズの余暇活動やスポーツに対する見解、身体的な訓練から利用者が主体となる余暇活動に展開していった担い手となる指導者の検討、1907年以降のハル・ハウスで行われた余暇活動やスポーツ活動の展開、学校体育との比較検討などが残っており、さらに研究を続けたいと考えている。

【註】

- 1) Welch (2004) は、子どもにとって遊びの重要性を提唱したホール (G.S. Hall), エリオット (C. Eliot), ソーンダイク (E.L. Thorndike), キルパトリック (W. Killpatrick), デューイ (J. Dewey) が学校体育の変革に影響を与えたとしている (p. 117)。
- 2) 児童労働によって得られた賃金の事例では、有名なキャンディ屋の2店舗に6人の女兒を朝7時から翌朝までに集める斡旋の仕事をした13歳の女兒は、1日50セントを受け取ったが、店舗までの交通費は自腹で出し、仕事終わりの夜中に危険な地区を徒歩で移動して帰宅したという (Maps and Papers, pp.55-56)。1892年のシカゴにおける女性労働者 (14歳以下も含む) の平均賃金は、週当たり6.22ドルであるが、職種による賃金格差が大きく、全体の57.1%は週4.91ドルで働いていた (Bureau of Labor Statistics of Illinois, 1893, p.XV)

【付 記】

本研究は科学研究費（基盤研究C：No. 19K02924, 代表・千賀愛）による補助を受けた。

【文献等】

- Addams, Jane (1896) Object of Hull-House, as Stated in Its Charter, Hull-House Bulletin, 1(1), p.1.
- American Gymnasia and Athletic record, Vol.4, 1908, Boston, American Gymnasia Company.
- Bureau of Labor Statistics of Illinois (1893) Biennial report of the Bureau of Labor Statistics, V.7-8. H.W. Rokker.
- Cremin, L.A. (1961) The Transformation of the School: Progressivism in American Education 1876-1957. New York: Vintage Book.
- Cromie, Thetis R. (2015) Jane Addams and the “Devil Baby Tales”: The Usefulness of Perplexity in “Sympathetic Understanding,” a Tool in Learning Empathy. American Psychoanalytic. Journal of the American Psychoanalytic Association, Vol.63(1), pp.101-136.
- Davis, Allen F. (1967) Spearheads For Reform: The Social Settlements and the Progressive Movement 1890-1914, Oxford University Press, New York.
- Frost, Joe L. (2010) A History of Children’s Play and Play Environments, Routledge.
- The Wiley Blackwell handbook of the psychology of positivity and strengths-based approaches at work, edited by Lindsay G. Oades
- Hardy, Stephen (2003) How Boston Played: Sport, Recreation, and Community, 1865-1915. The University of Tennessee Press.
- Hull-House (1891) Summer School at Rockford Seminary, College Extension Class, Reel 53, in The Jane Addams Papers.
- Hull-House (1892) Weekly Programs of Lectures, Clubs, Classes, etc. March 1st, Reel 50, in The Jane Addams Papers.
- Hull-House (1895a) Plan for College Extension Classes at Hull-House: for ten weeks beginning January 15, 1895, Reel 53, in The Jane Addams Papers.
- Hull-House (1895b) Maps and Papers, in The Jane Addams Papers.
- Hull-House (1898) Hull- House Bulletin, 3(6), October 1896, in The Jane Addams Papers.
- Hull-House (1899) Hull- House Bulletin, 3 (10 and 11), April and May 1899, in The Jane Addams Papers.
- Hull-House (1900) Hull- House Boys’ Record, 1(2), 1900, Reel 50, in The Jane Addams Papers.
- Hull-House (1906) Hull- House Bulletin, 7(1), 1905-1906, in The Jane Addams Papers.
- Hull-House (1907) Hull- House Year Book, September 1, 1906 to September 1, 1907.
- Kelly, Brian L. & Doherty, Lauren (2017) A historical overview of art and music-based activities in social work with groups: Nondeliberative practice and engaging young people’s strengths. *Social Work with Groups: A Journal of Community and Clinical Practice*, Vol.40(3), pp.187-201.
- 木原活信 (1998) J.アダムズの社会福祉実践の研究, 川島書店。
- Mahoney, Kevin J., McGaffigan, Erin., Sciegaj, Mark, Zgoda, Karen and Mohoney, Ellen (2016) Approaches to empowering individuals and communities. The Oxford handbook of social work in health and aging, 2nd ed. Kaplan, Daniel B. & Berkman, Barbara (Ed), New York: Oxford University, pp.85-90.
- Malekoff, Andrew & Papell, Cahterine P. (2012) Remembering Hull House, speaking to Jane Addams, and preserving empathy. *Social Work with Groups: A Journal of Community and Clinical Practice*, Vol.35(4), pp.306-312.
- Meroed, E.C. (1906) American Playgrounds: Their construction, equipment, maintenance and utility. Boston: American Gymnasia Co.
- 三島亜紀子 (2018) 「社会的なもの」の仕事と社会学のあいだ—反転したジェンダーロールと在来知, 『社会福祉学研究』 15, pp.31-48.
- 文部科学省 (2018) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編 (幼稚園・小学部・中学部) 平成30年 3月.
- 中村利昌 (1991) 「ハル・ハウス」とソーシャル・グループワーク 『社会学論叢』 112, pp.299-312.
- 中村利昌 (1990) ジェーン・アダムス「ハル・ハウス」とシカゴ学派第1世代 『社会学論叢』 109, pp.74-87.
- Richmond, Julius B. & Harper, Gordon (1996) Child and adolescent psychiatry: Toward the twenty-first century. Harvard

- Review of Psychiatry, Vol.4(2), p.61-66.
- Rousmaniere, K. and Sobe, N.W. (2018) Education and the body: introduction, *Pedagogica Historica: International Journal of the History of Education*, 54 (1-2), 1-3.
- Rosenblatt, Aaron & Waldfogel, Diana (1983) *Handbook of clinical social work*. Jossey-Bass.
- 酒井千絵 (2017) 観察する女性／観察される女性 シカゴ社会学派社会学におけるジェンダー 『関西大学社会学部紀要』 48(2) pp.53-79.
- 澤江幸則・齊藤まゆみ (2014) 障害のある子どもの「身体」, 『身体性コンピテンスと未来の子どもの育ち』 明石書店。
- 千賀愛 (2009) 『デューイ教育学と特別な教育的配慮のパラダイム』 風間書房。
- 千賀愛・高橋智 (2003) ジョン・デューイとシカゴのソーシャル・セツルメント：デューイ実験学校と J.アダムズのハル・ハウスの実践的交差 『社会事業史研究』 31, pp.99-118.
- Spargo, John (1906) *The bitter cry of the children with a new introduction by Jules Chametzky*. New York: Johnson Print Corp. (Reprint in 1969).
- Steizer, Caitlin (2010) The brilliant genius: Using improv comedy in social work groups. *Social Work with Groups: A Journal of Community and Clinical Practice*, Vol.34 (3-4), pp.270-282.
- 杉山恵子 (2014) エレン・ゲイツ・スター：ハル・ハウスにおける製本制作の盛衰を中心に 『恵泉女学園大学紀要』 26, pp.87-109.
- Shields, Patricia M. (2003) The community of inquiry: Classical pragmatism and public administration. *Administration & Society*, Vol.35(5), pp.510-538.
- 徳永寅雄 (1968) セツルメントの変遷とハル・ハウス 『社会事業の諸問題：日本社会事業短期大学研究紀要』 15, pp.105-120.
- University of Chicago (1894) *Annual Register*, July 1893 to July 1894, with announcements for 1894-95, The University of Chicago Press.
- University of Chicago (1910) *Annual Register*, July 1909 to July 1910, with announcements for 1910-1911, The University of Chicago Press.
- U.S. Census Bureau, *History, Through the Decades, Fast Facts of 1880 & 1890*
(https://www.census.gov/history/www/through_the_decades/fast_facts/最終閲覧2020年3月29日)
- Velte, Kyle & Ortega, Debora M. (2015) Old turf new battles: Feminism, legislation, and the body. *Affilia: Journal of Women & Social Work*, Vol.30(1), pp.5-8.
- Welch, Paula D. (2004) *History of American Physical Education and Sport, Third Edition*, Charles C Thomas Publisher, Springfield Illinois.

(札幌校准教授)